

研究大学コンソーシアム（RUC）の活動について

1. 令和 2 年度の活動実績について

(1) 全体会議および運営委員会の開催

研究大学コンソーシアム（RUC）は、研究大学強化促進事業の採択機関をはじめとした研究力強化に積極的に取り組む大学等により構成され、各機関における好事例や課題の発信・共有を目的としている。運営に当たっては、すべての構成機関が参加し、コンソーシアムとしての方針を決定する「全体会議」（議長：山本進一 自然科学研究機構客員教授）を設置している。

3 月末には、今年度の活動報告及び来年度の活動計画等について議論する全体会議を開催する予定。なお、全体会議のほか、幹事機関のアドバイザーボードとして「運営委員会」（委員長：金子修 自然科学研究機構理事）を設置しており、適宜開催している。（※全体会議、運営委員会の構成機関は別添参照）

〈今年度の全体会議 開催実績〉

・ 第 6 回 令和 3 年 3 月 26 日（金）（予定） オンライン開催

審議事項：令和 2 年度活動報告および令和 3 年度活動計画（案）について

研究大学コンソーシアムへの新たな参画機関について

等

(2) タスクフォースにおける活動

構成機関における共通する課題・テーマについて、従来の 3 つのタスクフォースに加え、令和 2 年度より新たに「異分野融合タスクフォース」を設置して活動している。また、タスクフォースの活動の一環として、勉強会等も適宜実施している。タスクフォースは、各大学等から推薦された各テーマに係る専門家（※）の検討の場となっている。

（※）「高度専門人材・研究環境支援人材の活用に関するタスクフォース」については、執行部側の視点で議論できる者の参加としている。

○ 高度専門人材・研究環境支援人材の活用に関するタスクフォース

（座長：自然科学研究機構、27 機関が参加）

令和 2 年度は、リサーチ・アドミニストレーター活動の強化に関する検討会及び文部科学省委託事業「リサーチ・アドミニストレーターの認定制度の実施に向けた調査・検証」（受託機関：金沢大学）への有識者の参加等、URA の質保証を目指した取組みを進めた。また、コロナ禍における URA の安定的雇用のため、「新型コロナウイルス感染症災禍からの研究活動の再開と研究力の向上に必要な研究大学強化促進事業の財源確保に関する要望」（令和 2 年 7 月 7 日）の取りまとめに際し、活発な議論を行った。

○ 研究力分析の課題に関するタスクフォース

（座長：大阪大学、27 機関が参加）

令和2年度は、世界大学ランキングに関連して、令和元年度に行った Times Higher Education (THE) への申し入れに引き続き、研究大学コンソーシアム参画の研究大学の研究力の現状を把握した上で、今後の研究力の向上に向けた取組みや、世界大学ランキングの今後の在り方について、エグゼクティブセミナー（8月26日（水）開催、後述）の場でディスカッションを行った。

○国際情報発信に関するタスクフォース

（座長：京都大学、23機関が参加）

令和2年度は、大学等の国際情報発信力を強化・促進するため、引き続き、AAAS（米国科学振興協会）とも連携し、EurekAlert!を国際情報発信プラットフォームとして、英文プレスリリース作成支援サービス（NRAP）の活用などの取組みを進めた。

また、国際広報及び大学のレピュテーション向上の指標と評価に関して、人材育成ワークショップの一つを担当することとした（令和3年2月（予定）、後述）。

○異分野融合タスクフォース

（座長：東京工業大学、19機関が参加）

令和元年度の研究大学コンソーシアムシンポジウムのテーマとして、好事例の共有と活発なディスカッションのあった「異分野融合研究の推進」について、4つ目の新たなタスクフォースとして立ち上げ、活動を開始した。

分野や機関の枠を超えた共同研究を企画・立案・推進していくため、各大学の取組みの整理及び研究力強化に資するデジタルトランスフォーメーション（DX）の在り方について5回にわたり議論するとともに、高度専門人材・研究環境支援人材の活用に関するタスクフォース、研究力分析の課題に関するタスクフォースとの3タスクフォース合同勉強会においても、DXに関する最新の動向を共有し、ディスカッションを行った。特に3タスクフォース合同勉強会では、エルゼビア社のモハメド・アイサティ氏の講演など含め、DXに関する国内外の状況に関する意見交換を行った。

〈タスクフォース会合（オンライン開催）〉

10月7日（水）、10月21日（水）、11月19日（木）、12月9日（水）、
12月14日（月）

〈3タスクフォース合同勉強会（オンライン開催）〉

テーマ：「研究力強化に資するデジタルトランスフォーメーションの潮流」
10月23日（金） 141名参加

（3） 研究大学コンソーシアムシンポジウム（第4回）の開催

RUC 構成機関における研究力強化に係る好事例等の共有を図るため、構成機関以外も対象に「研究大学コンソーシアムシンポジウム（第4回）」を開催した。今回は、「新型コロナウイルス感染症災禍からの“新しい研究スタイル”による研究力向上に向けて」をテーマとして、世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）との共催によりオンラインで実施し、延べ500名を超える参加者

があった。

開催日：11月13日（金）

○ ポスター発表：14機関が自大学の研究力強化の取組み、好事例をポスターで紹介

○ メインセッション：

（午前の部）

・ 基調講演：

木越 英夫（筑波大学 副学長・理事（研究担当））

渡辺 治（東京工業大学 理事・副学長（研究担当））

・ 研究大学コンソーシアムの活動について：山本進一（RUC 全体会議議長）

※このほか、文部科学省より話題提供が行なわれた

（午後の部）

・ パラレルセッション1

テーマ「With コロナ時代の国際人材交流について」

パネリスト：国際 HFSP 推進機構、WPI-I2CNER、

ロックフェラー大学、奈良先端科学技術大学院大学

・ パラレルセッション2

テーマ「コロナ禍における URA の研究支援活動の好事例」

パネリスト：金沢大学、自然科学研究機構、東京医科歯科大学、信州大学

・ パラレルセッション3

テーマ「新しい研究情報発信の在り方と課題」

パネリスト：文部科学省科学技術・学術政策研究所、シュブリンガー・ネイチャー（日本）、WPI-Kavli IPMU



パラレルセッションの様子

（4） ホームページの運用

岡山大学を座長機関とする「広報・情報チーム」を設置し、ホームページの運用を行っている。

令和2年度は、RUC 構成機関における好事例、URA 等の取組み、関連イベント等について、随時情報発信を行った。引き続き、ホームページ内の情報発信と内容の充実を図っている。

また、各機関における URA の活動をアピールするため、令和2年度内に、ホームページに各機関の URA 活動を紹介するコーナーを設置する予定である。

（広報・情報チームの構成機関は、別添参照）

※研究大学コンソーシアム（RUC）ホームページ (<https://www.ruconsortium.jp/>)

（5） 「エグゼクティブセミナー」「研究力強化人材育成ワークショップ」の実施

研究大学群にとって有益と思われるテーマについて、令和元年度より、新たに研究力向上に寄与する取組を実施している。

○ エグゼクティブセミナー

研究大学コンソーシアム構成機関の研究担当幹部を対象に、EBPM (Evidence Based Policy Making) の活用と課題について議論するセミナーとして、有識者による講演とパネルディスカッションを実施した。特に、豊田長康・鈴鹿医療科学大学学長より精緻なエビデンスに基づいた大学の研究力分析に関する講演があったほか、Times Higher Education チーフ・データオフィサ

一の Duncan Ross 氏参加のもと、令和3年度に予定されている THE 世界大学ランキングの指標の変更方針などについて意見交換を行った。

「研究大学の研究力の向上に向けて 研究力の現状分析と世界大学ランキングの今後について」
開催日：8月26日（水） オンライン開催 70名参加

○ 研究力強化人材育成ワークショップ

研究大学の URA 及び事務職員に向けて、指標に関する基本的な情報を共有し、EBPM 的手法に係る取組・好事例を紹介するとともに、今後の EBPM の取組の促進、URA-事務連携の強化・促進に資するワークショップを開催している。

- ・ 第1回 令和3年2月中（予定） オンライン開催
国際広報及び大学のレピュテーション向上に関して、エビデンスを用いて評価する指標や手法等の確立を目指したワークショップ。国際情報発信タスクフォースが企画を担当。
- ・ 第2回 令和3年3月中（予定） オンライン開催
コロナ禍における、エビデンスをもとにしたリスク評価と、研究再開に向けた BCP 策定等の取組みに係るワークショップ。

（6） 「DX プラットフォーム」の構築

研究大学強化促進事業の「URA による研究 DX を推進するデータの整備・構築」の一環として、異分野融合タスクフォース等における議論を踏まえ、URA の活動に資する DX プラットフォームの企画案を幹事機関において作成し、運営委員会の了承を経て、文部科学省へ提出した。

DX プラットフォームの構築、及び分野や機関の枠を超えた共同研究等の立ち上げを目指し、DX プラットフォームタスクチームを設置し、具体的な検討を開始している。

2. 今後の活動予定

- ・ 全体会議の開催（年1～2回程度）
- ・ 各タスクフォースの活動（合議またはメールによる開催のほか、タスクフォース主催の勉強会等も随時開催し、各テーマについてさらに議論・情報共有を進める）
- ・ 「研究大学コンソーシアムシンポジウム（第5回）」の開催
- ・ ホームページの運用（RUC 構成機関における好事例、URA 等の取組み、関連イベントなど、随時情報発信を行う）
- ・ 「エグゼクティブセミナー」「研究力強化人材育成ワークショップ」の実施
- ・ 「DX プラットフォーム」の構築

* 上記のほか、研究力強化に関する取組みを必要に応じて実施していく。

以上

1. 研究大学コンソーシアム構成機関

	大学等機関名		大学等機関名
1	北海道大学	18	大阪大学
2	東北大学	19	神戸大学
3	筑波大学	20	岡山大学
4	千葉大学	21	広島大学
5	東京大学	22	山口大学
6	東京医科歯科大学	23	徳島大学
7	東京農工大学	24	九州大学
8	東京工業大学	25	九州工業大学
9	電気通信大学	26	熊本大学
10	新潟大学	27	奈良先端科学技術大学院大学
11	金沢大学	28	東京都立大学
12	福井大学	29	早稲田大学
13	信州大学	30	慶應義塾大学
14	名古屋大学	31	自然科学研究機構
15	名古屋工業大学	32	高エネルギー加速器研究機構
16	豊橋技術科学大学	33	情報・システム研究機構
17	京都大学		

2. 運営委員会構成機関

	大学等機関名		大学等機関名
1	筑波大学	6	岡山大学
2	東京大学	7	九州大学
3	名古屋大学	8	熊本大学
4	京都大学	9	奈良先端科学技術大学院大学
5	大阪大学	10	自然科学研究機構

3. 広報・情報チーム構成機関

	大学等機関名		大学等機関名
1	電気通信大学	3	自然科学研究機構
2	岡山大学	4	情報・システム研究機構